

学部 / 看護専門領域 / 看護援助の方法

科目コード : 120307

成人看護方法論 I Adult Nursing:Care and Methodology I

| | | | | | |
|---------------|---|-----|----|------|-------|
| 担当教員 | 村井 嘉子 北山 幸枝 岩城 直子 | | | | |
| 実務経験 | | | | | |
| 開講年次 | 2年次後期 | 単位数 | 2 | 授業形態 | 講義・演習 |
| 必修・選択 | 必修 | 時間数 | 45 | | |
| Keywords | 成人期の特徴 健康機能障害 不適応反応 機能障害のアセスメント 情報の統合 看護問題の特定 看護援助方法 | | | | |
| 学習目的・目標 | ＜目的＞ 成人患者の健康機能障害をアセスメントして看護上の問題を確定し、適切な看護援助を計画し立案するために必要な知識や技術を習得する。また、基本となる看護問題の解決に必要な実践的な思考プロセスを養う。＜目標＞ 1. 成人期に特徴的な健康機能障害をもつ患者の不適応反応をアセスメントすることができる。 2. 各健康機能障害に患者に不適応反応を生じさせる要因を述べることができる。 3. 患者の不適応反応が患者へ与える影響を述べるができる。 4. 事例を通して患者の不適応反応から看護上の問題を取りだし、確定することができる。 5. 事例を通して具体的な援助の方法を計画・立案することができる。 | | | | |
| 授業計画・内容 | | | | | |
| 回 | 内容 | | | | |
| 1-13 | ◇成人期特有の疾患のある紙上患者を通して看護過程を用いて展開する ・各機能のアセスメント 1. 呼吸・循環機能に障害をもつ患者のアセスメント 2. 呼吸・循環機能に障害をもつ患者の看護問題の理解と援助方法 1. 消化・吸収機能に障害をもつ患者のアセスメント 2. 消化・吸収機能に障害をもつ患者の看護問題の理解と援助方法 1. 内分泌・代謝機能に障害をもつ患者のアセスメント 2. 内分泌・代謝機能に障害をもつ患者の看護問題の理解と援助方法 <前半試験> | | | | |
| 14-21 | 1. 身体防御機能に障害をもつ患者のアセスメント 2. 身体防御機能に障害をもつ患者の看護問題の理解と援助方法 1. 運動機能に障害をもつ患者のアセスメント 2. 運動機能に障害をもつ患者の看護問題の理解と援助方法 1. 脳・神経障害をもつ患者のアセスメント 2. 脳・神経障害をもつ患者の看護問題の理解と援助方法 | | | | |
| 22 | ・情報の統合 情報の整理と疾患・病態との関連づけ、判断結果について | | | | |
| 23 | ・看護計画立案 | | | | |
| 24 | <後半試験> | | | | |
| 教科書 | 疾病・障害論で使用するテキスト 系統看護学講座 専門分野II 成人看護学2～11 (但し、9. 女性生殖器を除く) | | | | |
| 参考図書等 | 疾病・障害論でを使用した教科書及び資料 | | | | |
| 評価指標 | 講義の前半及び後半、グループワークそれぞれの時間数の2/3以上の出席がなければ、試験は受験できず評価の対象にはならない 前半筆記試験40%、後半筆記試験40%、各機能障害のアセスメント等レポート(4回)20% | | | | |
| 関連科目 | 疾病・障害論II A、疾病・障害論II B、臨床薬理学、臨床栄養学 疾病・障害論I A、疾病・障害論I B、疾病・障害論II C | | | | |
| 教員から学生へのメッセージ | 成人看護学で学ぶ内容は広範囲です。疾病障害論や病態学で学んだことを想起・振り返りながら学習してください。教科書や参考図書を読むだけでは実力つきませんから、じっくり考え時間を掛けた学習をしてください。看護は人間の健康生活に即して考えることです。じっくり考える学習習慣ができると看護がおもしろくなります。 | | | | |